

山寺通信

鶏谷山花栄寺だより

今号の記事:

- 謹賀新年
- 住職交代のお知らせと晋山式のご案内
- 扁額「拈花」を修復中
- 十六羅漢像
- 生きるのが苦しいのはなぜ?
- 春季彼岸会の御案内

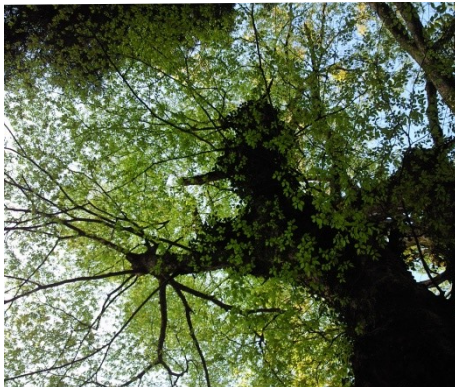
謹賀新年

昨年は寺族フサ子の葬儀、開創五百年記念法要など大きな出来事がありましたが、檀信徒の皆様方に支えられて乗り切ることができました。衷心より御礼申し上げます。今年はさらに晋山式という行持を控えております。心を引き締めて努めてまいります。どうかお力をお寄せ下さいますよう伏してお願い申し上げます。

数年来普請が続き、皆様方にも多大な負担をお願いして参りましたが、一連の事業は皆先送りできないものばかりでしたが、その工事がすべて終わった時に五百年という節目を迎えることができたことは、不思議な符帳の一致でありました。特別に意識したわけではないのですが、後から思い返せばあたかもそのための準備をしていたかのように思えてならないのです。

このような経験から物事が順調に進んでいると感じるのは自然なことでありましょうが、しかし、ここで一歩退いて周りを見渡してみましょう。例えば、お寺や仏教をめぐる情勢はどうでしょうか。檀家がお寺を支えるのが当たり前だという考えは過去のものと感じます。価値観が多様化し、同時に信仰心も個人の問題と考えられています。各地で過疎が進み、地域の維持も難しくなってきました。物質的にも経済的にも繁栄した時代を経た後、物質的な豊かさがか

えって信仰を拠り所にした生活をおびやかしています。お寺の存在感は葬式法事だけにしかなく、生きとし生けるもの皆すべての幸せを願うという本



来の姿がかすんで見えます。日本社会があらゆる方面で停滞しているとはよく言われることですが、仏教も例外ではなく、何かに絡みとられるように身動きできなく

なっているように感じます。

そういう時代であるからこそ花栄寺には果たすべき役割があるのだ、と声を出していきたいものです。神仏を身近に感じ、祈り感謝する心を養いたいものです。御先祖様に親しみ、今を生きる自分は、決して自分だけの命ではない理



(ことわり)に目覚めてまいりたいものです。見た目の華やかさだけを訴えるのではなく、裏打ちとなるべき日常をこそ問いたいものです。

ひとつ、またひとつと、目の前にある壁を乗り越えてまいりましょう。お寺というところは、大いなる力に守られているのだと決然と信じ切って、精進してまいります。本年もよろしく願いいたします。



住職交代のお知らせと晋山式のご案内

このたび、三十年にわたって住職を務めてきた当山二十六世九里慧明和尚様が退董(たいとう:住職を退く意)し、弟子悠禅が二十七世住職となります。そこで、右記日程により、二十六世退董式と新住職任命の儀式である晋山式をおこないます。平日でお忙しいところ誠に恐縮ですが、万障お繰り合わせしてお出でいただきたくご案内申し上げます。



概要

期日:平成25年10月10日(木)

時間:午前8時から

場所:花栄寺本堂

本堂正面の扁額「拈花」を修復中

ある時、お釈迦さまが弟子たちに法を説かれたときのこと。言葉で法を語るかわりに優曇華を手に拈(ひね)り、弟子たちに「わが問いに答えられる者はあるか?」とばかりに差し出します。弟子たちの中でただ一人摩訶迦葉(まかかしょう)尊者のみ、その意を汲み取りにつこりとほほ笑みを浮かべます。額の「拈花」とは、「拈華微笑」(ねんげみしょう)という名で知られる仏教伝説から取られた文字です。実は後世作られたお話なのですが、コトバではモノそのものは言い尽くせないという仏教哲学を端的に表している物語で、とくに禅宗で重要視します。

雪解けの季節には、装いも新たに本堂を飾ってくれることでしょう。



十六羅漢像

羅漢(らかん)とは「供養を受けるに値する聖者」の意。お釈迦様の法を後世に伝えんと尽力した十六人のお弟子様たちをとくに十六羅漢と呼び、各地の寺院で祀っています。花栄寺にも、本尊様の座(須弥壇)の両脇に十六体の像がありますが、損傷著しくいずれ修復が必要な状態です。(図は、本堂向って左の壇とジュヴァカ尊者)



生きるのが苦しいのはなぜ?

さだまささんの往年の名曲に「向い風」があります。その一節に「かもめが風に逆らって/孤独な空に帰って行った」とあります。

私達の人生航路は、一人生まれて一人死にゆくのが真実の姿です。その間には、幾多の人間関係に向い風が吹くことでしょう。

ところで、鳥やあの重いジャンボジェットが空を飛べるのはなぜでしょう?それは、空気という向い風が抵抗力となり支えてくれるからです。

私達の人生では、向い風は苦しみそのものです。しかし、それは私達を下支えする力でもあります。苦しみをバネに、一日一日の御縁に感謝し、人々の幸せを祈りたいものです。

春季彼岸会のご案内:

3月20日(日)、例年どおり春季彼岸会を行います。詳細は後日ご連絡いたします。

問合せ先:0257-29-2266(花栄寺)